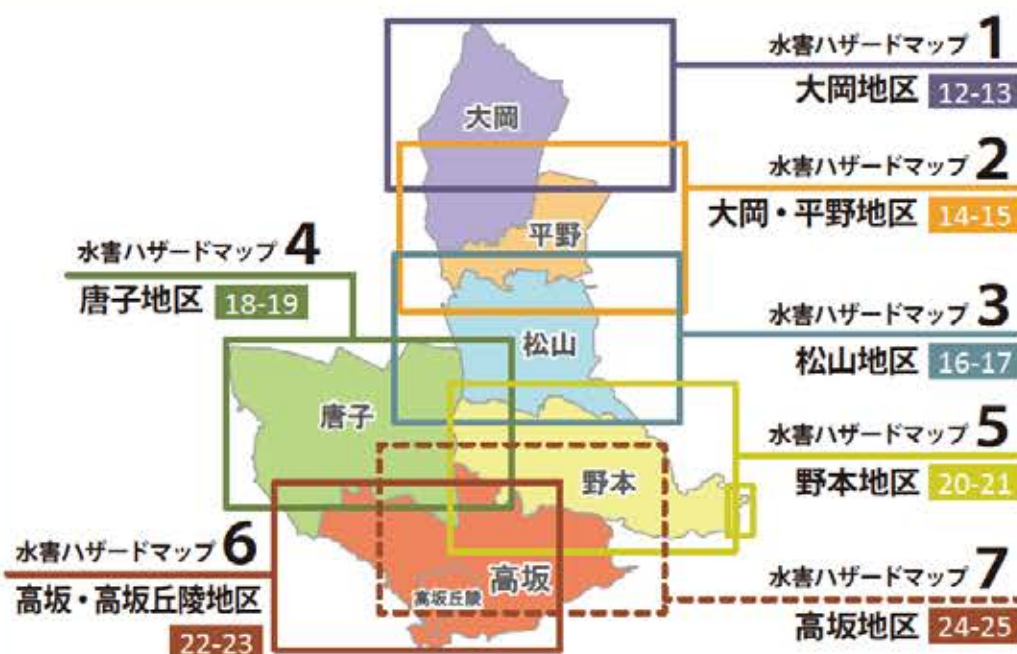


水害ハザードマップの使い方

1 お住まいの地区のマップを開く。

右の地区ごとの掲載ページを参考に、お住まいの地区のページをご覧ください。



2 マップで自宅を探し、色や模様を確認しましょう。

マップで自宅を探し、想定される浸水の深さや、危険な区域かを確認しましょう。



水害のときに危険な区域

ピンクドット	流速が速く、木造家屋が倒壊する 氾濫流(家屋倒壊等氾濫想定区域)	おそれがある区域
あかストライプ	洪水の際に地面が削られる 河岸浸食(家屋倒壊等氾濫想定区域)	おそれがある区域
あか	がけ崩れで建物や命に著しい危害 急傾斜地の崩壊(土砂災害特別警戒区域)レッドゾーン	がけ崩れが起きるおそれがある区域
きいろ	がけ崩れで命や身体に危害 急傾斜地の崩壊(土砂災害警戒区域)イエローゾーン	がけ崩れが起きるおそれがある区域

注意

色や模様がなくても、状況に応じて避難を考えましょう。

3 想定される浸水状況に応じて、複数の避難先を考えましょう。

「早めの避難先」と「逃げ遅れたときの避難先」を考え、お住まいの地区のページと裏表紙に記入しましょう。

早めの避難先

たとえばこんなところへ・・・

- ◎親戚・知人宅など、市内に限らずより安全な場所
- ◎指定緊急避難場所や指定避難所等

逃げ遅れたときの避難先

たとえばこんなところへ・・・

- ◎高く丈夫な建物や高い場所
- ◎指定避難所に限らず、駆け込めるところ
- ◎自宅の高いところ、斜面から離れた部屋

4 避難先への経路や移動時間等をイメージし、対応行動を裏表紙のマイ・タイムラインにメモしましょう。

「早めの避難先」と「逃げ遅れたときの避難先」への行き方を確認し、道路冠水箇所やアンダーパスなどの避難の際に危険な箇所を避け、避難経路を考えておきましょう。



ペット 犬や猫、その他小動物(小鳥やウサギなど)との避難について

- ペットは受入れが可能な施設の屋外の指定した場所で飼育してください。(倉庫等、避難者の居室以外の場所に専用スペースを設けることがあります。)
- ケージ、キャリーバッグ、リード、ペットフードなどのペットの避難用品や備蓄品を持参しましょう。

補助犬(盲導犬、介助犬、聴導犬)は、居住スペースに入ることができます。

